

自治会まちづくりミーティング（要旨）

- 1 自治会等の名称 那加第1自治会連合会、那加第3自治会連合会
- 2 日 時 令和7年8月20日（水）19時00分～20時30分
- 3 場 所 産業文化センター 2階第3会議室
- 4 出席者 自治会長等 35名
市長・都市活力創造課長ほか
- 5 内 容 ① 連合会長あいさつ
② 市長あいさつ
③ 提言による懇談
④ 市政の説明（市長）
⑤ 連合会長まとめのことは
⑥ 市長まとめのことは
- 6 提 言 （1）今後の自治会活動の在り方について
（2）那加3地区のまちの将来像と今後の事業展開
（3）消防団従事者への支援

提言（1） 今後の自治会活動の在り方について

＜浜見町第1自治会長＞

自治会長2年目となり、日頃感じていることをお話しさせていただきます。

昨今は、定年も延長、廃止される傾向で、自治会長も現役の方、働いている方が増えてきています。昔は仕事も引退し、どちらかという地元の名士の方が自治会長に就任して、何年も継続してやっていただいていた。今は1年、2年で交代、現役の方が自治会長に就任するということで、仕事をしており、自治会長の負担が重くなってきており、次の自治会長のなり手がいないという問題が出てきております。

具体的に自治会長の仕事として、連合会・青少年育成の会議などへの出席、毎月の不燃物ステーションの立ち合い・清掃・整理、地域によっては神社の神事関係、毎月の班長会の資料作成、市への要望書の作成、集会施設の修繕や物品購入の補助申請書の作成、総会資料の作成、大量印刷、回覧物の印刷配布、行事参加の声掛けなど、どう対処したらいいかわからないような、自治会長自身が解決策をもたない住民からの苦情の相談などがあります。独居の方で認知になりかけていてどう対処したらわからないという相談があったりします。

来年新しい自治会長をだれかにお願いしますが、例えば、自治会長の仕事をすべて書き出すと、こんなに大変なことは受けられないと尻込みされると思います。「この案件は、ここに受け皿があるので安心してください」と言える窓口、まちづくり推進課がありますが、もう少し細か

い部分、問題にはなっていないが精神的にプレッシャーになってきている相談や総会資料の作成もその時の会長の考え方などでまちまちになっており、ひな形的なものを示していただけような、会長を務めていく中での細かいこと、ちょっとしたことを相談できる窓口を作っていただければと思います。

悩み事、心の相談、よろず相談的な窓口があると良いと思います。

市の見解とともに、ほかの自治会長の皆さんの話も聞きたいと思います。

<市長>

まちづくり推進課で様々な相談を受けています。

自治会長の負担軽減ということで様々なことに取り組んできました。県内でも珍しいですが、那加、鶴沼、稲羽・川島、蘇原の各地区にエリア担当職員を配置しており、よろず相談として、細かなところまでは難しいかもしれませんが、できるかぎりお困りごとを聞かせていただき、対応する職員を配置していますので、ぜひ、こちらを頼っていただきたいと思います。

市では、自治会役員の皆様に参加を依頼する行事の見直しや、市にご提出いただく書類の簡素化を図るなど、負担軽減に努めてまいりました。

また、「結ネット」といって、自治会活動に特化したアプリを、令和6年度より試行的にご利用いただいています。現在、6割を超える自治会長の皆様にご利用いただいているほか、9団体（20の単位自治会）がモデル自治会として、この「結ネット」を自治会内で活用し、情報発信等を行っていただいております。

試行的に活用していただいている自治会からは、好評をいただいております、来年度から「導入しては」という意見もいただいております、来年度からこの「結ネット」を本格的に導入していきたいと考えています。自治会長の業務にできるだけ時間を取られないような取組もしていきたいと考えています。

また、今年度からの新たな取組として、これまで実施してきた式典的な「自治会長大会」のあり方を見直し、市からの依頼業務や、市への要望、補助金の申請方法、活動補償制度、地域防災対策などについて、わかりやすくお伝えする実務的な「自治会長研修会」に変更いたしました。

自治会長としての業務の細かなところに対して、目が届いていない実情があります。自治会としての様々なお困りごとについて、エリア職員をはじめ市全体として様々な声を聴かせていただきながら、取り組んでまいりたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

また、ほかにも自治会としてのお困りごとなどがあれば、ここで聞かせていただきたいと思います。

<浜見町第1自治会長>

問題が出てからの相談でなく、こんな相談してもいいのかなという段階で相談していいものなのかお聞きしたい。

<市長>

まずは、まちづくり推進課が窓口となって、相談内容によって様々な部署につないでいきますので、何でもいいので気軽にご相談ください。

<那加第1自治会連合会長>

私が自治会長になった経緯をお話ししますと、何の事前の打診もなく、総会があり、投票箱があって、次の自治会長の選挙の投票で96%の方が私の名前を投票されていた。地域のこと自治会のことなど何もわからない中で自治会長となってしまいました。

そんな中で、自治会長として班長会などで意見があって、やらなくていいものは止めよう決めました。すると、長老の方から呼び出され、「何を勝手にやめるのだ」と言われることがありました。そこで、「止めたいな」となったときには、事前に歴代5代前ぐらいの自治会長に相談し、意見調整をしてから止めることにしました。そんなやり方にしたら、とくに異論もなく収まったという経験をしました。

一人で背負うのではなく、歴代の自治会長の皆さんのお知恵もお借りしながら、だんだん負担であることを止めていくという取組をし、少しずつ行事や負担を軽減してきました。

また、自治会連合会の方にも上げていただいて、他の自治会はどう対応しているのか聞くなど、みんなで知恵を出し合うことが必要だと考えます。

<市長>

地域でいろいろな課題があって、先進的に参考になる事例に基づいて、活動を進めている自治会もあります。ある自治会では、若い世代の方が「ごみ当番をやりたくない、やる時間がない」という意見があって、自治会費について当番をやる方は自治会費を低くし、やらない方の自治会費を高くするなど、差をつけ、その差額分の費用を利用して、ごみ当番をやる方に有償で手当をお支払いしている自治会もあるそうです。自治会のいろいろな工夫したやり方の事例や情報をまちづくり推進課も持っていますので、気軽にご相談ください。

提言（２） 那加３地区のまちの将来像と今後の事業展開について

<西野町２自治会長>

提言の理由として、私たちの住んでいる地域は、名鉄新那加駅、JR 那加駅を中心とした商業のまちとして、昭和、平成のはじめごろまでは、多くの商店が建ち並び活気のある、賑わいのあるまちとして発展していました。

これまで、商店街への支援など、市も様々な活性化のための政策をしていただきました。しかし、徐々に郊外の大型店舗に押され、商店街も衰退の一途をたどり現在に至っています。現在は、後継者もなく、空き店舗も多く、空き家や駐車場が増え、住民の高齢化も進んだ地域になり、子どもの頃と違って、活気のないまちに変貌してしまった感じがあります。

住みよいまちづくりを進めるにも、個人や自治会活動には限界があります。市の積極的なまちづくりへの取組が必要と考えます。

そこで、那加３地域においては、戦前からある古い町では、高齢化が進み、自治会活動の継続が困難となりつつある。一方で、現在でも開発が進み、人口が増加している町もあるなかで、まちづくりを進めるために、市として、那加３地域の将来像とその実現に向けた事業展開を示していただき、住民への理解を深めていくことが重要と考えます。

<市長>

那加３地域のまちの将来像と今後の事業展開についてご提言をいただき、誠にありがとうございます。

会長のご提言にもありましたが、名鉄新那加駅及び JR 那加駅周辺は、以前は大きな賑わいもありました。

私も祖父母がこの地域に住んでいたことから、幼少期に買い物や遊びにたびたび訪れており、商店、映画館やボウリング場などもあり、賑わいにあふれた大好きなまちであったことを記憶しております。

しかしながら、車社会の進展や経済情勢・社会情勢の変化などの背景もあるかと思いますが、一方で、名鉄新那加駅と JR 那加駅があり、非常にアクセスが良いことや、市を代表する「学びの森」と「市民公園」という2つの大きな公園に隣接していることなど、非常にポテンシャルの高い地域であります。

近年、学びの森や市民公園一帯は、「KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE」といった官民連携事業により、新たな賑わいが生まれ、本市の魅力的なスポットとして利用されています。一昨年は、公園利用を評価され、国土交通省大臣表彰も受けたところです。

そこで、学びの森・市民公園一帯の賑わいを周辺のエリアにも波及させていきたい、もう少し西の方とつなげて那加のまちなかの賑わいを復活させたいという思いから、様々な取組をしています。

担当課長からお話をさせていただきます。

<都市活力創造課長>

これらの事業に関わって今年で4年目になります。

かつて私が学生の頃、「学びの森」は自然豊かで、静寂に包まれた素晴らしい公園と思っていましたが、思ったほど人が集うことのない公園でした。しかし、この公園の魅力に気付いた市民・事業者の方が、10年ほど前から「マーケット日和」を開催し、また「KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE」を、賑わいを創出する施設として市と民間事業者が連携してオープンしました。これらのことにより、利用者の方の SNS による情報発信やメディアにも取り上げられ、この公園エリアが全国的に注目を集めている場所となっています。

この、「学びの森」「市民公園」一帯の賑わいを公園だけでなく周辺エリアにも波及させていきたいという思いから、昨年度から、まちなかウォークアブル推進事業「那加 from Park 構想」に着手いたしました。これは、国の補助事業です。

まちなかウォークアブルとは、「居心地が良く歩きたくなる都市空間を創出するための取組」であり、公共空間の改善や地域の活性化を目指しています。

この事業により目指す那加3地域の将来像は、「そこへ行ってみたい」、「暮らしたい」、「何かを始めてみたい」などといった、「選ばれる地域」となることです。

そのためには、病院、学校、スーパー、道路、公園などの生活の維持を目的とした施設だけではなく、多様な活動や人とのつながりから生み出される「地域の魅力」が加わる必要があります。

これらは、自治会をはじめ、事業者、子ども会、高齢者団体、消防団、サークルなど、地域の皆さんの主体的な活動によって、日々の生活に大小のつながりが生まれ、これが居心地の良さとして地域の魅力につながるものと考えています。

また、那加エリアでは、都市再生推進法人である株式会社 OUR FAVORITE CAPITAL、略して OFC と言いますが、市と連携したまちづくり事業を展開しています。社長が那加浜見町出身の方で、子どもの頃的那加3の駅前のいい思い出をイメージされていて、そんな景色をもう一度取り戻したいという思いの強い方です。

都市再生推進法人とは、まちづくり分野で豊富な実績とノウハウを持つ法人を、まちづくりの中核を担う団体として市が指定したものです。

この OFC は、空き店舗活用の実績があることや、親会社がデザイン会社として、多くの自治体等との関わりの実績があり、県内の市町村とも連携協定を結び、東京銀座にあるアンテナショップ「岐阜トキョー」を運営し、岐阜の魅力を全国に発信していることなどから、那加エリアにおいても、そのスキルやノウハウを活かした取組が展開されることが期待されます。

現在、OFC が那加エリアで展開している事業としては、例えば、かつてシルバー人材センターやハローワークが入居していた旧東亜町会館を、賑わいを生み出す地域の交流拠点施設として利活用する「旧東亜町会館活用事業」があります。市から借り受け、修繕をして活用していただいています。

旧東亜町会館は、賑わいと多様な人々の交流が生まれる地域の新たな拠点施設として、ギャラリーを併設した絵画教室や、ハーブとスパイスをテーマにした様々なスイーツやご飯を楽しむことのできるカフェが誘致され、また、一般開放された多目的ホールでのイベントなどを定期的実施、また、クラフトビールの醸造所とその場で飲むことのできる施設も、今後オープンする予定です。このクラフトビールの出店者も那加中出身で、現在は市外にお住まいですが、この那加地域をみて、地元で地元の方たちが集う場所を作りたいとして準備をされています。

その他、空き家または空き店舗物件の所有者と出店希望者のマッチングに積極的に取り組み、那加エリアの価値向上を図るとともに、空き家・空き店舗の増加という地域課題の解決の一助となる事業も推進しています。

例えば、昨年度は、旧東亜町会館のカフェと絵画教室に加え、市民公園南の古民家風の店内でイートインができるパン屋や、旧高田時計店に花が買える喫茶店、JR 那加駅南の古民家を改修した交流の場を兼ねたまちの案内所の合計 5 件が開業につながりました。

地域の皆さまには、このエリアが少しずつ変わりはじめていることを実感いただけているのではないかと思います。

今年度も既に、クラフトビールの醸造所に飲食スペースを併設した店舗や、まちに関わりたいと考える人の受け皿となる宿泊所を兼ねたゲストハウス、おしゃれな雑貨店など、出店に向けた具体的な相談を複数受けていると伺っており、私としても今から新しいお店のオープンを心待ちにしています。

このような民間事業と並行して、市では那加エリアの情報発信事業として、全国各地のまちづくりで活躍する方をゲストに招き交流する、「那加デザインミーティング」というイベントを開催しています。

参加者には、それぞれまちへの関わり方をイメージしていただきながら、対外的には那加エリアの魅力を全国に発信することにより、継続的に那加エリアに関わる人を増やしていくことを目的としております。

これまで3回開催し、地域にお住まいの方々をはじめ、これからの那加エリアに興味を持たれる方など、延べ約 230 名の方に参加いただきました。

イベントでは、会場内のいたる所で参加者同士の交流が生まれ、「あらためて那加の魅力に気づいた」といった意見や、「那加のまちに関わりたくなった」、「暮らしが楽しくなっていくのを想像できた」などといった声を多くいただいております、明るい未来をイメージした感想をいただいております、これからのこの地区の活性化に向けた取組を、地域一体で進めていく士気を高める場になっていると感じています。

引き続き、地域の皆様からご意見を伺いながら、どのように暮らしを楽しみたいかという「使う側の目線」「暮らす側の目線」に重点を置き、地域の魅力を高めるまちづくりを進めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

なお、那加工エリアにおいて、空き家・空き店舗の維持管理や利活用、その他のお困りごとがございましたら、お気軽に都市活力創造課までご相談ください。

<西野町2自治会長>

交流人口の増加という点で大変いい事業であると感じました。また、自治会内にも店舗が空き家となっているところもありますので、相談させていただきます。

<那加第1自治会連合会長>

那加3校区は、ポテンシャルの高い地域です。「一六市」の思い出もあります。課題は、高齢者は増えてきて、行き場がないことと、家を売るとなると狭い道でセットバックしないと建て替えてできないなどの課題があります。核になる何かができて、お年寄りたちの行き先ができるといいと思います。住みたい、住み続けたいと思っている方はたくさんいると思う。若い人たちは住みたいと思っている地域だと思いますので、期待しています。

提言(3) 消防団従事者への支援

<野畑町自治会長>

消防団従事者への具体的な目に見える支援策を実施して欲しい。

消防団従事者が年々減少しています。

先日もお寺が火事になりましたが、一番初めに筒先をもって駆けつけるのが、地元の消防団員です。従事者は使命感を持ってがんばってくれていますが、特に若い世代であり、子育てもあり、家庭、特に奥様の理解を得ることに苦慮しています。この先を考えると、近い未来に活動の維持が困難となります。

一方、絶対に必要な組織であり、家庭に応援いただけるような具体的なベネフィットを出す必要があると思います。市民税の優遇や固定資産税の減免などができないものも含めて、提言させていただきます。

<市長>

私も消防団経験者で、9年間ほど団員をやりました。私が入団したころは、全国的にも消防団員をやっていただけでも多くありました。

かつては全国で200万人いた消防団員は減少傾向が続いており、今や75万人を割る状況にあるなど、地域防災力の低下が懸念されております。

主な原因としては、人口減少、若者の都会への流出、地域への意識低下、仕事との両立による負担の重さなどが上げられています。

このような中、本市の入団状況は、だんだん減ってきてはいますが、自治会をはじめとした、地域住民の皆様の消防団活動へのご理解とご協力により、令和7年4月1日現在、672名の団員数を確保（充足率88.4%）しております。しかし、地域によって消防団員の確保が厳しい話が出てきています。

那加地域では班の統合などの話は出ていませんが、稲羽地区では、消防団の班の統合、消防団のOBで班を運営するなど対応しているようです。

市長への提案箱「あさけんポスト」や「自治会まちづくりミーティング」などで、消防団に関する提言が寄せられております。

このようなことから、本市においても、現在、消防団員の皆様からのご意見もお伺いしながら、団員の負担軽減や処遇改善などに取り組んでいるところです。

処遇改善の取組としましては、令和4年に災害による出勤報酬を7,000円から8,000円に増額したほか、交通費の意味合いとして費用弁償を創設し、令和5年からは訓練や式典等、すべての消防団活動に対して1,500円を支給することにいたしました。

昨年度から「市消防操法大会」の当面の実施を見送っています。地区の消防操法大会は、地域の方々に消防団員の活動を理解していただきたいとして継続しています。県大会は、これまで市大会で優勝した消防団が出場していましたが、2年ほど前から、出場希望の地区の消防団が出場することになり、例えば、蘇原地区消防団として、蘇原地区所属の消防団員の中から希望する方で出場する方法にしています。

その他、岐阜県の事業となりますが、平成26年8月から「団員カード」を提示すると割引や特典が受けられる「ありがとね！消防団・水防団応援事業所制度」が実施されており、平成28年8月からは、団員を支えている家族も特典を受けられる「団員家族カード」も発行されています。これは、地域のお店が一定のサービスを通じて消防団を応援し、消防団員に対して地域を挙げて盛り上げていくことを目的としています。

サービスの一例を紹介しますと、飲食代や宿泊費について割引されるものや、粗品をプレゼントするもの、入会金や手数料の免除など、事業所により様々です。

市としても、この制度について、様々な企業や事業所にご協力をいただくように、また、多くの方々に利用いただけるよう情報を発信し、周知に努めていきたいと考えています。

今回、会長より、消防団従事者が年々減少していることを受け、このままでは、近い将来活動の維持が困難となるとの危機感から、目に見える支援策として「市民税の優遇」あるいは「固定資産税の減免」をしてはどうかというご提言をいただきました。

確かに税制優遇があれば入団する一つの動機付けとなり、加入促進につながることで、地域防災力の強化につながることを期待できます。

一方で、人材確保の目的で消防団員だけが税の優遇を受けることは、例えば民生委員や自治会、その他のボランティアに従事される方との不公平感を生むことなど、税の三原則の一つである税負担の公平性を損なう可能性もありますので、優遇制度を設けることは困難と考えています。

時代とともにライフスタイルや考え方が変わる中で、団員を確保していくことは非常に難しい問題ではありますが、他自治体の事例も参考にしながら、引き続き消防団員の負担軽減や処遇改善に努めることで、消防団員の確保を目指してまいります。

来週、岐阜県市長会の会議がありますが、各務原市から「消防団員の確保と消防団の活動支援、または補完する組織との連携について」というテーマで県内各市と意見交換を実施しますので、良い事例があれば、参考事例として取り入れることも検討したいと考えています。

＜野畑町自治会長＞

つい最近まで、出不足金の問題もありました。団員の方を見ると、新しく家を建て地域に引っ越してきた方もいらっしゃり、住宅ローンを抱えて生活してみえる。消防団に入らなければならないのは、自治会に入っているからだということで、自治会への加入を止めようという動きが起きています。

闇バイト、オレオレ詐欺など世の中で起きている問題は、人と人が触れ合わないことによって出てきているのではないかと考えています。何らかの歯止めをかけていかないといけないと考え

ています。例えば、指定ごみ袋が 1,000 円するとしたら、自治会員は 200 円で買えるとするとか、加入している方、消防団などをやっている方が馬鹿をみる、やらない方が得だという風潮になってきていることを危惧します。寂しい時代になってきている。

何らかの歯止めをかけていくことも考える時期にきていると思います。

＜東亜町自治会長＞

那加 3 校区は、独居高齢者の世帯も増えています。空き家、空き店舗も相当あるようです。先ほど説明をいただいた事業を知らない方も多くあると思いますので、もっと事業の周知をしていただきたいと思います。

＜都市活力創造課長＞

空き家、空き店舗がどれくらいあるかなどを把握するためにアンケートもとっています。積極的に空き家、空き店舗を利用していきたい方とのマッチングをどんどんやっていきたいと考えています。

独居高齢者の世帯への対応は、事情をお聞きしながら市の様々な部門と連携して対応していきたいと思います。まちづくりは、課題解決をしていくことと考えていますので、今後もこの事業の周知をしながら、様々な相談を受けていきたいと考えています。

市政の説明

「もっとみんながつながる 笑顔があふれる元気なまち ～しあわせ実感 かかみがはら～」

市政の概要、令和 7 年度事業について市長が説明。